

令和4年度四万十町教育研究所 第1回運営委員会会議録（要旨）

1 日 時 令和4年6月9日（木）15：30～16：30

2 場 所 四万十町農村環境改善センター 大会議室

3. 出席者

運営委員 坂本 益英(欠) 下元 伸博(欠) 宮脇 育代 前田 憲志
下司 康弘 芝 伸介(欠) 石崎 豊史 戸田 晶秀
事務局 山脇 光章(教育長) 浜田 章克(教育次長) 岡 英祐(課長)
野村 泰子(所長) 浜口 千茶(研究員) 山崎 一(教育相談員)
伊賀 修(教育相談員) 齋藤 マサ(SSW) 小野川 恵利(SSW)
榊山 雅子(支援センター指導員) 中平 均(支援センター指導員)
藤原 克彦(支援センター指導員) 中津 吉弘(欠) 国広 由香(欠)

4 傍聴者 0名

5 日 程

(1) 委嘱状交付

(2) 教育長挨拶

(3) 自己紹介

(4) 役員選出 会長・副会長決定

会長：坂本益英 副会長：下元 伸博

(5) 協議

(会長、副会長欠席の為、出席者協議の上石崎委員に会の進行を依頼)

① 教育研究所の概要

② 令和4年度 事業について

③ その他

6 協 議

(1) 教育研究所の概要

(事務局より、資料P1～P4にて、設置目的、基本方針、業務内容、重点施策、職員構成、研究所組織及び職務分掌について説明する。)

【質疑なし】

(2) 令和4年度 事業について 資料P5 令和4年度四万十町教育研究所事業計画（案）

① 教育研究活動（研究員の調査研究テーマ）

(事務局より、資料P7「調査研究計画書」にて説明する。)

【質疑なし】

② 学校研究支援

(事務局より、QU、hyper-QU の取組 (質問紙の配布)、いのちの学習」への支援、校内研修支援について、説明をする。)

【質疑なし】

③ 教育支援センターの運営

(事務局より 資料P 6「令和4年度 年間事業計画 (案)」、P 8～P 10「教育支援センター要綱」にて説明する。)

戸田委員 : 支援センターにどれくらいおるか。義務教育修了生は?

事務局榊山:「かげつ」は女子1名、男子1名、「たのの」は男子1名、「とおわ」は女子1名。

④ 教育相談活動 (教育相談員・SSW)

(事務局より 窪川地域と大正・十和地域に分かれ、教育相談員とSSWの2人体制による活動状況を説明する。)

事務局山崎: 義務教育修了生は、自分が担当しているのは4名。19歳以上はうちから離れる。

19歳以上で引きこもっている人は数名いる。

下司委員 : 19歳以上の人たちへの支援は?

事務局山崎: うちからは離れるが、社会福祉協議会の担当者2名がアウトリーチ支援事業で19歳以上の男性と関わってくれている。健康福祉課が23歳の女の子の引きこもりをみている。母と健康福祉課が医療に定期的に行ってくれている。また、もう1名、健康福祉課が関わってくれている。

石崎委員 : 大人の不登校も最近のニュースでやっていたが、色々な取り組みの中で引きこもりをなくしていかないといけませんね。

⑤ 研究協力校の依頼

(事務局より 資料P 11～P 12にて説明する。)

【質疑なし】

⑥ 副読本『わたしたちのまち 四万十町』の検証

(事務局より 副読本の検証を継続していくことを説明する。)

【質疑なし】

⑦ 四万十教科書センター

(事務局より 教科書の管理、教科書展示会について説明する。)

【質疑なし】

⑧ その他の取り組み

(事務局より 研修、所内会・全体会、研究所通信「しまんと」の発行、えんぴつの持ち方教室、ホームページによる情報発信について説明する。)

【質疑なし】

石崎委員：令和4年度事業計画については承認でよろしいか。

全委員：はい。

(3) その他

【意見】

石崎委員：協議してほしいことやお気づきのことがあればお願いします。

事務局野村：これまで4月、5月の相談人数は30名。完全に不登校は、学校から直接は聞いてはいないが概算で10名程度いる。その中でかかわっていける子どもは数人。支援会等で情報共有して、学校の先生とはつながるが、そこから先になかなかつながらない。子どもと顔つなぎができない中ではふみこめないから、らちがあかない。指導員、相談員、SSWは何とかしたいという強い思いでかかわっている。中2の男子は定期的ではないが、やっと活動出来だしたし、昨年度不登校だった児童は4月転校して学校に復帰している。時々見かけるがにこやかな表情をしている。学校に行かなかった1年間、支援センターで温かく見守られた。先生たちのおかげ。学校で「こんなことしているよ。」と連れ出してくれたこともある。情報共有からしかスタートしないので、支援センターにつなげていただきたい。子どもが得るところがあると思う。つなぐということを今年はお願したい。進路指導もできるのではと思う。中学校の3年間はあっという間に過ぎてしまう。そこを何とかしたいというのが私たちの思い。

教育長：せっかく先生がたも来ているので、お聞かせいただけたら。

宮脇委員：SSWの先生をいつも頼っている。学校と通じ合うことで子どもに返っていく。色々な情報を共有することが大事。不登校気味でも頑張ってきている子もいるがまだまだ心配。相談させていただきながら、どういう風にしたらよいか試行錯誤している。

石崎委員：情報共有が大事。

前田委員：中平先生とはよく学校でお会いする機会ある。以前の職場が高知県教育センターだったので、教育研究所連絡協議会を担当させていただいてお世話になった。その時には、ある年は「学力」、ある年は「不登校対策」とテーマを決めて企画していたが、実際のところは生徒理解をどうするか情報交換をした時がとてもよかった。色々なことに重きをおかないといけないが、情報交換しながらしていかなければいけない。

事務局野村：朝と昼、相談員が中学校の靴箱に行っているのでデータででている。こいこいとPRするところではないが、支援センターがあたたかいところだとわかってもらえば。釣りから帰ってきた子どもを見た時の表情がすごくよかった。

事務局榊山：2月に相談員、SSWと受け入れについての道筋を相談したことがあった。昨年度は学校と家庭がつながっていないお子さんの指導が難しかった。学校とも連携してやっていこうということで今年はスムーズだった。「たのの」や「とおわ」もあり、連携してやっていくのでご協力をお願いします。

石崎委員：完全不登校の子どもが支援センターに通えるようになったことなど、保護者や支援

センターが一体となって取り組んだということで、頭が下がる思いです。

教育長 : 支援センター指導員に藤原先生に来ていただき、教員 OB の方のバックアップ体制が出来ているので、宮脇先生、前田先生には、担任の先生も含め相談しやすい雰囲気作り、環境づくりを学校でもお願いしたい。研究所と学校が一体となるよう応援していかなければならない。

また、ICT のことも進めてもらっている。

校長会では伝えているので、お願いしたい。

(閉会)